

**基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます (1) 公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます**

**【基本的方向】**

- ① 就学セーフティネットの観点から、意欲あるすべての子どもが高校教育を受けることができるよう、公私あわせて高校への就学機会を確保します。
- ② 公私ともに学校情報についての公表・公開をすすめ、生徒が十分な情報のもとで自らの入りたい学校を主体的に選択できる環境づくりをすすめます。
- ③ グローバル社会で活躍できる人材や、厳しい雇用環境の中にあって社会で活躍できる人材を育成するため、公私が切磋琢磨しつつ共同での取組みをすすめます。

**【主な取組み】**

基本的方向	具体的取組名 (事業名)	実施内容
①	高校の授業料無償化等 (公立高等学校授業料無償化の実施 <参考資料 2 P 1 >) (私立高等学校等生徒授業料支援補助金 <参考資料 2 P 1 >) (公立高校生等奨学給付金事業 <参考資料 2 P 1 >) (私立高校生等奨学給付金事業 <参考資料 2 P 1 >)	公立高等学校については授業料不徴収制度及び就学支援金制度を実施するとともに、私立高校等については授業料無償化制度を実施した。 平成 26 年度以降入学の 1・2 年生を対象に、市町村民税所得割額が非課税である世帯に対して、授業料以外の教育費の負担軽減を目的として、奨学のための給付金を支給した。
	奨学金制度の運営・運用 (公益財団法人大阪府育英会における奨学金事業 <参考資料 2 P 2 >)	(公財) 大阪府育英会における奨学金事業について、中学生や教職員に対して制度を周知するとともに、給付型奨学金の事業資金の確保のため寄附金を募集した。
②	府立高校における広報活動の充実 (広報強化推進事業 <参考資料 2 P 3 >)	各府立高校において、学校説明会を実施するとともに、府教育委員会では、大阪府内全ての公立高校を集めた進学フェアを開催した。
	府立高校における広報活動の充実 (「公立高校ガイド」の作成 <参考資料 2 P 3 >) (高校入試情報提供事業 <参考資料 2 P 3 >)	府内全公立高校の情報を掲載した「公立高校ガイド」を府内の全公立中学 3 年生に配付するとともに、学校情報を web で検索できる「大阪府公立高等学校・支援学校検索ナビ (咲くなび)」を運用した。
	私立高校における学校情報の公表・公開	補助金を減額して配分した。

**基本方針 7 (第 3 回審議会における議題) の再掲**

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
③	英語コミュニケーション能力の育成 （骨太の英語力養成事業 <参考資料2 P5～6>） （英語教育推進事業 <参考資料2 P5～6>）	高校3年間で、英語4技能（聞く・話す・読む・書く）を、英語圏の大学で修学できるレベルに引き上げるため、対象の府立高校17校のうち、平成27年度から10校でSET（スーパーイングリッシュティーチャー）によるTOEFL iBTを扱った授業を導入し、他の7校においては28年度から同じく導入するためSETの採用やシラバスの作成を行った。 また、英語力の底上げのため、在籍校によらないオール大阪の視点で、意欲ある生徒に対する「聞く・話す」能力の鍛錬を行うとともに、英語科教員の指導力を高めるプログラムを実施した。
	キャリア教育の充実 （キャリア教育支援体制整備事業 <参考資料2 P7>）	就職希望者が多い学校（平成27年度 府立34校、私立5校）を支援するため、就職内定率向上に実績のある「就職支援コーディネーター」等を配置し、生徒一人ひとりの状況を踏まえたキャリア教育を実践した。

## 【指標の点検結果】

指標	目標値 (H29年度)	H24年度実績 (計画策定時)	H27年度実績	点検結果
○指標7 昼間の高校への進学率	計画進学率をめざす (93.9%)	93.1% (H25年度選抜)	% (H28年度) [H26年度実績 (H27年度実績)]	<b>H27年度選抜結果は H28年8月頃に公表予定</b>
○指標8 学校情報の公表状況	いずれについても100%を めざす	府立高校 財務情報 100% 学校教育自己診断 83.8% 学校協議会 87.0%	府立高校 財務情報 100% (注1) 学校教育自己診断 100% 学校協議会 100%  (H26年度実績 学校教育自己診断 85.7% 学校協議会 97.4%)	◎ 平成27年度実績は、いずれも目標 値(100%)を達成した。
	いずれについても100%を めざす	私立高校 財務情報 78.1% 自己評価 74.0% 学校関係者評価 49.0%	H26年度実績 私立高校 財務情報 82.3% 自己評価 62.5% 学校関係者評価 75.0%  (H25年度実績 私立高校 財務情報 81.3% 自己評価 65.6% 学校関係者評価 53.1%)  ※H27年度実績は H28年秋以降に公表予定	△ (注2) 平成26年度実績は、財務情報及び 学校関係者評価については、計画 策定時の実績をそれぞれ4.2ポイ ント、26.0ポイント上回ったが、 自己評価については、計画策定時 の実績を11.5ポイント下回った。

(注1) 財務情報については、平成26年度実績を記載(平成27年度実績は、平成28年秋頃公表予定)。

(注2) 目標に対する平成26年度実績の進捗状況を記載。

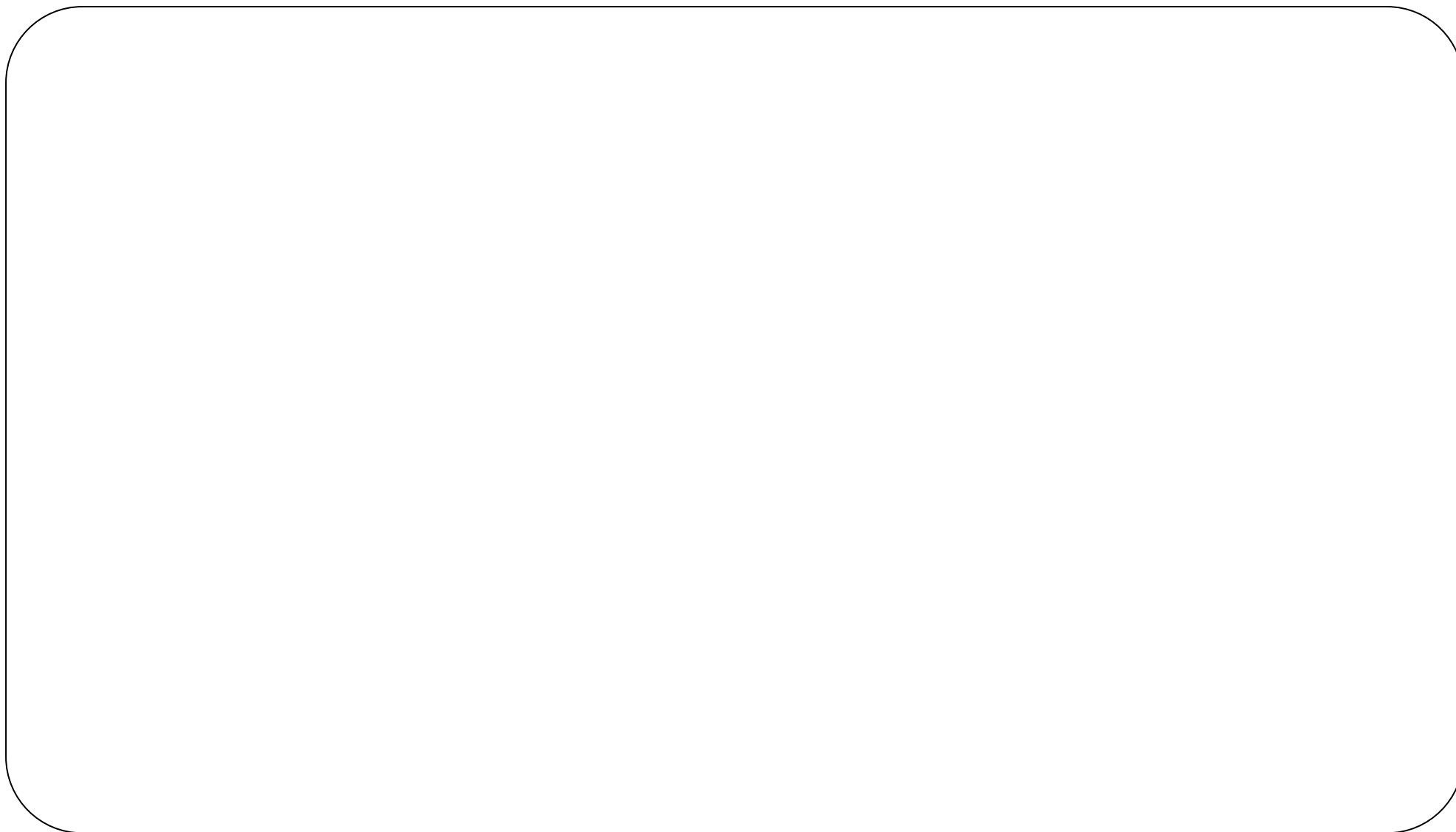
指標	目標値 (H29年度)	H24年度実績 (計画策定時)	H27年度実績	点検結果	
○指標9 府立高校3年生のうち英検 準2級相当以上の割合	30%をめざす	25.8%	31.3% [H26年度実績 27.2%]	◎	平成27年度実績は、計画策定時の 実績より5.5ポイント上回った。
○指標10 ・府立高校の英語教員のう ち、英検準1級、TOEFL550 点、TOEIC730点以上を保有 する割合	60%をめざす	42.5%	48.0% [H26年度実績 48.6%]	△	平成27年度実績は、計画策定時の 実績を5.5ポイント上回った。
・府立高校の英語教員のう ち、英検1級、TOEFL iBT80 点、TOEIC 1,190点(SW含む)、 IELTS 6.5以上を保有する割 合(注)	20%をめざす	14.0% [H26年度実績]	16.4% [H26年度実績 14.0%]	○	平成27年度実績は、計画策定時の 実績を2.4ポイント上回った。
○指標11 公立・私立高校卒業者の就職 率(就職者の就職希望者に対 する割合)	全国水準をめざす	93.3% (全国：95.8%)	94.5% (全国：97.7%) [H26年度実績 94.7% (全国：97.5%)]	△	平成27年度実績は、計画策定時の 実績より1.2ポイント上回ったが、 全国平均との差は2.5ポイントか ら3.2ポイントに拡大した。
・府立高校卒業者の就職率 (就職者の就職希望者に 対する割合) 【基本方針2(2)指標13 の再掲】	全国水準をめざす	93.2% (全国：95.8%)	94.0% (全国：97.7%) [H26年度実績 93.7% (全国：97.5%)]	△	平成27年度実績は、計画策定時の 実績を0.8ポイント上回ったが、 全国平均との差は2.6ポイントか ら3.7ポイントに拡大した。
・私立高校卒業者の就職率 (就職者の就職希望者に 対する割合) 【基本方針2(3)指標20 の再掲】	全国水準をめざす	92.1% (全国：93.9%)	93.6% (全国：97.5%) [H26年度実績 95.6% (全国：97.3%)]	△	平成27年度実績は、計画策定時の 実績を1.5ポイント上回ったが、 全国平均を3.9ポイント下回った。

(注) 平成26年度より、英語力の底上げのため、短期集中研修など英語科教員の指導力を高める事業を実施していることから、教員の英語力を測る指標を新たに設けた。

## 【自己評価】

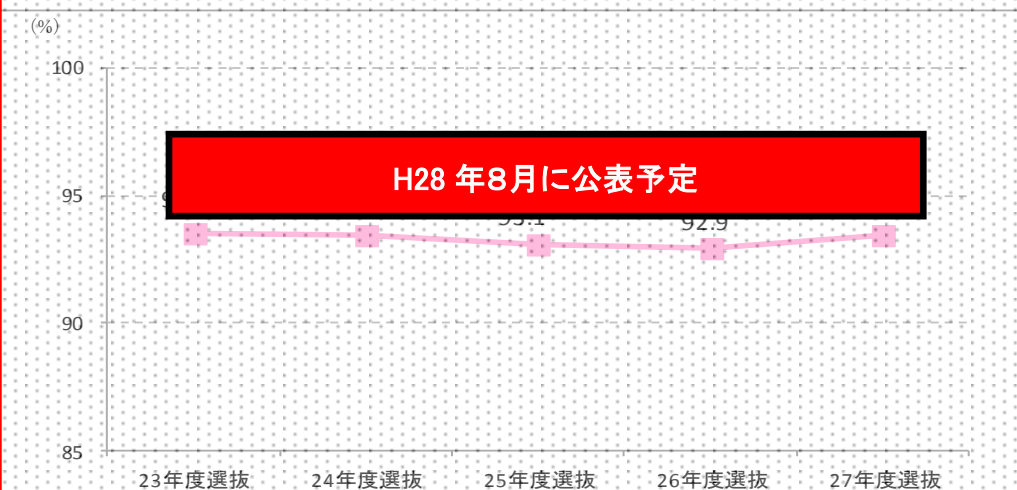
- ① 就学セーフティネットの観点から、意欲あるすべての子どもが高校教育を受けることができるよう、公私あわせて高校への就学機会を確保します。
- ・高校の授業料無償化や奨学金制度により、公私を問わず自由に学校選択できる機会を保障し、**屋間の高校への進学率が計画策定時に比べて上昇するとともに、**私立高校へ進学する割合も無償化制度導入前と比べて増加した。**(※下線部分は8月末に記載)**
- ② 公私ともに学校情報についての公表・公開をすすめ、生徒が十分な情報のもとで自らの入りたい学校を主体的に選択できる環境づくりをすすめます。
- ・府立高校については、「大阪府公立高等学校・支援学校検索ナビ（咲くなび）」の運用など広報活動に取り組んだ。学校教育自己診断及び学校協議会について公表した府立学校の割合は、個別の指導を強化した結果、目標値の100%を達成した。
  - ・私立高校については、情報未公表の場合は、私立高校に対する経常費補助金の配分において減額要素としており、各私立学校での情報の公表が進んだ。なお、平成26年度の自己評価については計画（P）と取組み（D）の関連性を精査する等、不十分な学校は未公表に区分した結果、公表状況は下がった。引き続き、学校情報の公表に努めるよう働きかけていく。
- ③ グローバル社会で活躍できる人材や、厳しい雇用環境の中にあって社会で活躍できる人材を育成するため、公私が切磋琢磨しつつ共同での取組みをすすめます。
- ・英語教育については、公私ともに様々な学校から、英語の技能を伸ばしたいという意欲ある生徒が参加する特訓クラスや、「オールイングリッシュ」で行う授業のノウハウを学ぶ教員向けの短期集中教員研修を実施し、府立高校3年生のうち英検準2級相当以上の割合は、目標値の30%を達成した。また、英検準1級、TOEFL550点、TOEIC730点以上を保有する府立高校の英語教員の割合は、ほぼ横ばい（前年度比0.6減）となり、改善の方策を検討しているところである。引き続き生徒の英語力の底上げのために必要な英語科教員の英語力の向上に努めていく。
  - ・キャリア教育については、公立・私立高校卒業者の就職率が、全国平均に比べると依然、低位にある。また、平成26年度から取り組んでいる「キャリア教育支援体制整備事業」において、就職支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカーを配置した支援校で、27年度の就職内定率が26年度と比較して1.0ポイント減少している。これは、キャリア教育の取組みにより、生徒の就労意欲を高めることで就職希望者が増加したものの、明確な職業イメージを持たすまでにはいたらず、また生徒の希望と職種がマッチングしなかったため、内定率を上昇させるまでにはいたらなかったことによるものである。引き続き、就職支援コーディネーター等と連携し、支援校における校内体制の強化を図り、キャリア教育の充実に努めていく。

【評価審議会における審議結果】



(参考)

◆指標7 昼間の高校への進学率

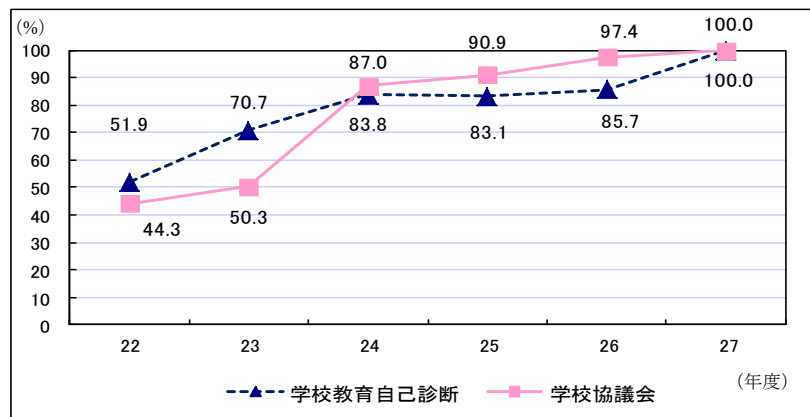


※府教育委員会調べ

※27年度選抜は、H26年度に実施したH27年度入学者の選抜

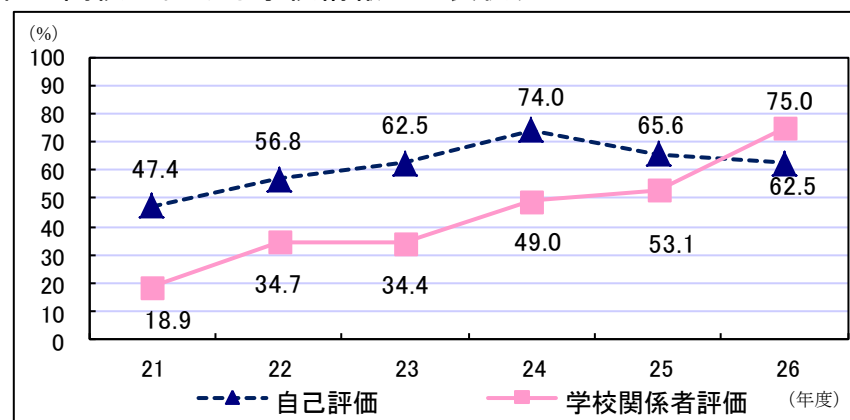
◆指標8 学校情報の公表状況

府立高校における学校情報の公表状況



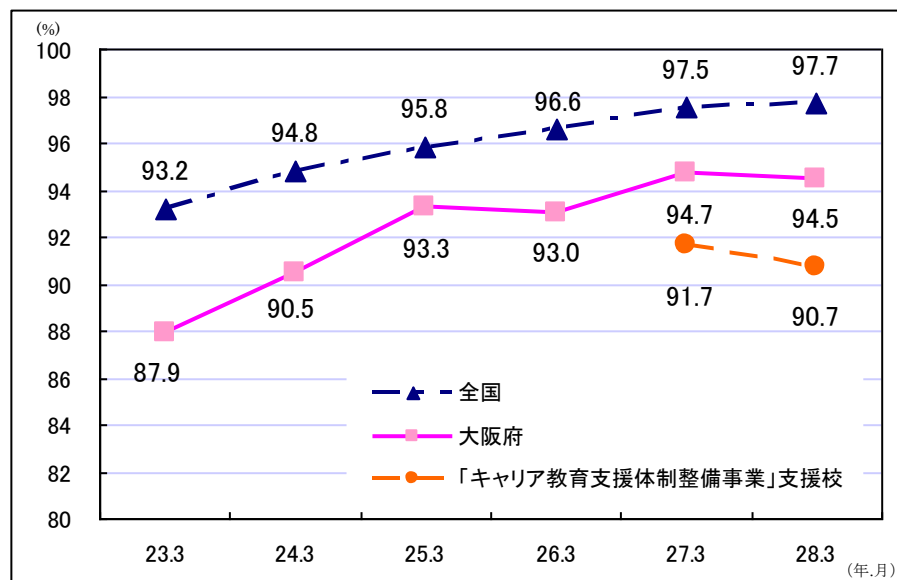
※府教育委員会調べ

私立高校における学校情報の公表状況



※府民文化部調べ

◆指標 11 公立・私立高校卒業者の就職率  
(就職者の就職希望者に対する割合)



※府教育委員会調べ及び文部科学省「高等学校卒業者の就職状況調査」

※「キャリア教育支援体制整備事業」支援校：

支援校 39 校（府立高校 34 校、私立高校 5 校 ※H27 年度）



## 基本方針2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます（2）活力あふれる府立高校づくりをすすめます

### 【基本的方向】

- ① グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。
- ② キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。
- ③ 計画的な施設整備や ICT 環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。
- ④ 府立高校の新たな特色に応じて、中学生にとってより一層公平でわかりやすい入学者選抜制度とします。
- ⑤ 各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。

### 【主な取組み】

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
①	グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）の充実 （グローバルリーダーズハイスクール支援事業 ＜参考資料2 P9＞）	GLHS10校共同で、海外派遣研修、課題研究の発表会などを実施した。 各学校の活動実績を評価する評価審議会委員が10校の平成26年度の取組みを評価し、平成27年度評価にむけて、学校訪問や校長ヒアリングを実施した。
	工科高校の充実 （実業教育充実事業 参考資料2 P11＞）	老朽化や安全性を考慮し、設備の更新及び施設の改修を行うとともに、産業界からのニーズや学習指導要領に対応した設備を導入した。 また、平成26年4月から工科高校9校それぞれの持つ強みを生かし、人材育成を重点化した3つの型（①「高大連携重点型」、②「実践的スキル養成重点型」、③「地域産業連携重点型」）に分け、目的に応じたカリキュラムや学習プログラムを展開した。
	生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置 （エンパワメントスクールの設置 ＜参考資料2 P12＞）	平成27年4月に開校したエンパワメントスクール3校（西成高校、長吉高校、箕面東高校）については、研修会等を通じて教員の授業力向上を図った。 平成28年4月に開校する2校（成城高校、岬高校）については、施設・設備の整備やプロジェクトチームの運営、中学生等へのPRを行った。 また、新たに1校（布施北高校）の設置（平成29年4月開校予定）を決定した。

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
②	<p>不登校の減少・中途退学防止の取組み （＜参考資料2 P14＞）</p> <hr/> <p>障がいのある生徒の高校生活をサポートするための人材の配置 （障がいのある生徒の高校生活支援事業 ＜参考資料2 P15＞）</p>	<p>中退率の高い33校に中退防止コーディネーターを配置し、中高連携や校内組織体制づくりを推進するとともに、全府立高校が参加する中退防止フォーラムを開催し、中退防止に効果をあげている学校の取組みを共有化した。</p> <p>障がいのある生徒の心身のケアや支援などを行うため、全ての府立高校にエキスパート支援員としてスクールカウンセラーを配置した。 また、生徒一人ひとりの障がいの状況に応じた学校生活支援を行うため、要望があった学校に学習支援員及び介助員を配置した。</p>
③	【基本方針7 基本的方向③及び基本方針8 基本的方向①の再掲】	<b>第2回および第3回審議会で審議予定</b>
④	<p>入学者選抜の調査書における目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の導入 （＜参考資料2 P20＞）</p>	<p>調査書における目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の導入については、新たな制度での入学者選抜の実施に向け、市町村教育委員会、中学校や高等学校の校長等対象の説明会を例年よりも早期に行うとともに、生徒、保護者への説明用のリーフレットを配付し、周知を行った。 また、4月の臨時教育委員会会議で、府立高等学校入学者選抜における中学校3年生の目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）について、府内統一の基準を決定し公表した。</p>
⑤	<p>府立高校の再編整備の計画的な推進 （府立高等学校再編整備事業 ＜参考資料2 P21＞）</p>	<p>大阪府立学校条例及び大阪府立高等学校・大阪市立学校再編整備計画に基づく平成27年度実施対象校及び再編方針案を9月に公表し、その後、府議会での議論や保護者等への説明を経て、11月に決定した（エンパワメントスクールへ改編する学校1校、普通科総合選択制から改編する学校5校、再編整備の手法について検討する学校1校、募集停止の決定に際して、平成28年度入学者選抜の志願動向を見極める学校1校）。</p> <p>入学者選抜の志願動向を見極める学校については、平成28年度入学者選抜の結果を踏まえ、平成28年3月に平成29年度入学者募集時から募集停止とすることを決定した。</p>

## 【指標の点検結果】

指標	目標値 (H29年度)	H24年度実績値 (計画策定時)	H27年度実績値	点検結果	
○指標 12 学校教育自己診断における 生徒の学校生活満足度	全府立学校で70%以上を めざす (注1)	70%を上回った学校 110校/170校	70%を上回った学校 126校/175校  〔 H26年度実績 70%を上回った学校 117校/173校 〕	△	平成27年度実績は、計画策定時の 実績を上回った。
○指標 13 府立高校卒業者の就職率 (就職者の就職希望者に 対する割合)	全国水準をめざす	93.2% (全国：95.8%)	94.0% (全国：97.7%)  〔 H26年度実績 93.7% (全国：97.5%) 〕	△	平成27年度実績は、計画策定時の 実績を0.8ポイント上回ったが、 全国平均との差は2.6ポイントか ら3.7ポイントに拡大した。
○指標 14 府立高校全日課程の 生徒の中退率	全国水準をめざす	1.8% (全国：1.0%)	H26年度実績 1.5% (全国：0.9%)  〔 H25年度実績 1.7% (全国：1.0%) 〕  ※H27年度実績は H28年秋以降に公表予定	○ (注2)	平成26年度実績は、計画策定時の 実績を0.3ポイント改善し、全国 平均との差も0.8ポイントから 0.6ポイントに縮小した。

(注1) 一部の支援学校については児童・生徒の状況を踏まえて診断項目を設定しているため、学校生活満足度を測る項目についての調査を実施していないことから、「全府立学校」には一部支援学校を含まない。

(注2) 目標に対する平成26年度実績の進捗状況を記載。

指標	目標値 (H29年度)	H24年度実績値 (計画策定時)	H27年度実績値	点検結果	
○指標 15 進路実現率	グローバルリーダーズハイスクールにおける現役での大学進学率を向上させる	グローバルリーダーズハイスクールにおける大学進学率 現役進学率：60.6%	グローバルリーダーズハイスクールにおける大学進学率 現役進学率：66.5%  [H26年度実績 64.7%]	○	平成27年度実績は、計画策定時の実績を5.9ポイント上回った。
	工科高校における高度職業資格取得者数について300人をめざす(注)	工科高校における高度職業資格取得者数150人	工科高校における高度職業資格取得者数210人  [H26年度実績 190人]	△	平成27年度実績は、計画策定時の実績を60人上回った。

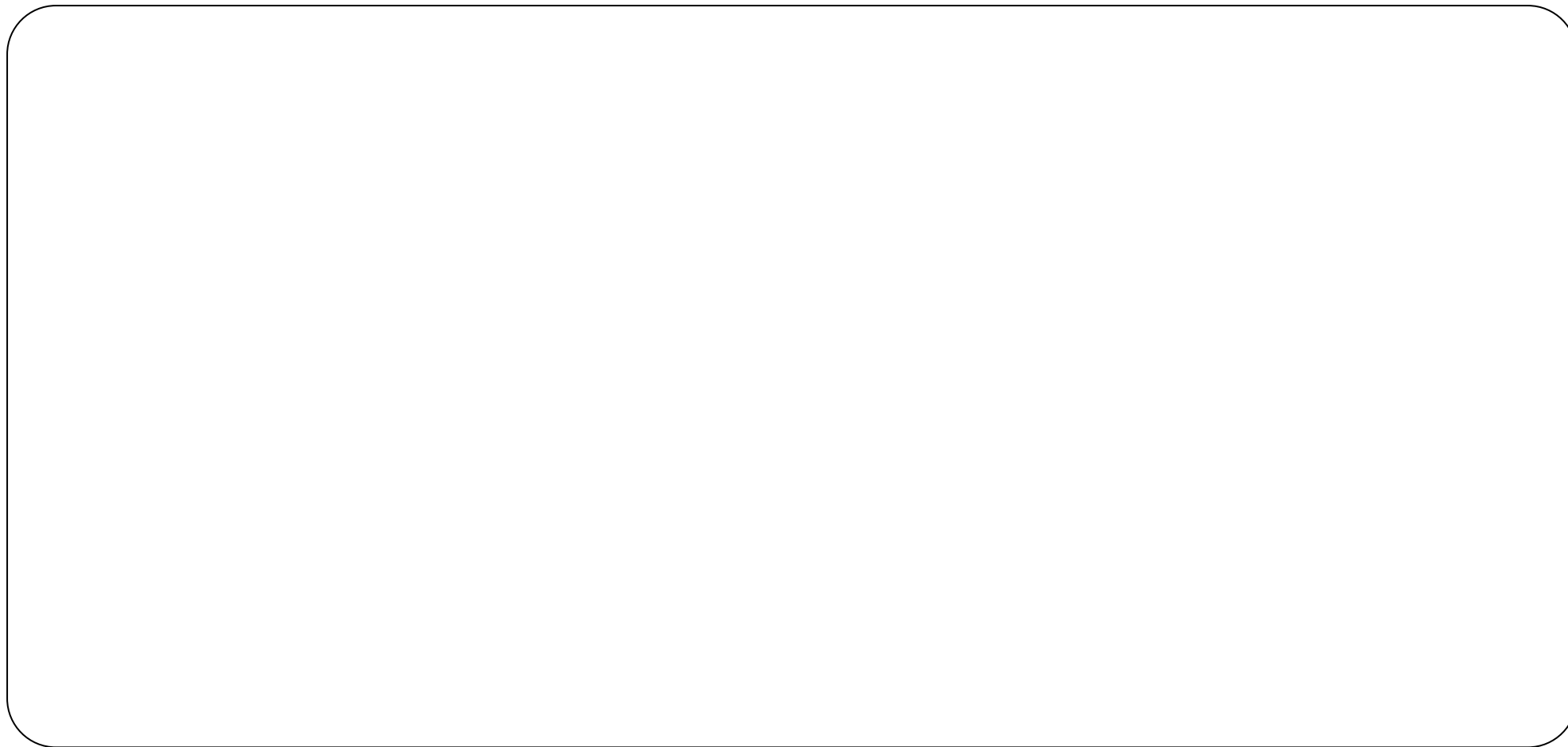
(注)「高度職業資格取得者」とは、旋盤など技能士検定(国家検定)等の取得者を示す。

## 【自己評価】

- ① グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など、社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。
- ・グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）や国際関係学科の設置など府立高校の充実を進めた結果、学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度は上昇したが、全府立学校で生徒の学校生活満足度 70%以上をめざすという目標に対してより一層の取り組みが必要である。
  - ・グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）については、各校が教員の授業力向上や進路指導の充実に努めるとともに、学習合宿や進学講習に取り組んだ結果、現役での大学進学率の向上という目標を達成し、指定した 10 校において大学進学実績で成果をあげた。
  - ・工科高校については、高度な職業資格取得に対応した学習内容の充実を図った結果、高度職業資格取得者数が増加傾向にあるが、伸び悩んでいる。今後、理工系大学への進学の推進や高度な資格取得、地域産業との連携について、生徒の進路希望の実現に向け、より一層の取り組みが必要である。また、中学生、保護者や中学校教員へ工科高校の魅力を一層発信していくなど、積極的な働きかけに向けて検討を始めた。
- ② キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。
- ・キャリア教育については、公立・私立高校卒業者の就職率が、全国平均に比べると依然、低位にある。また、平成 26 年度から取り組んでいる「キャリア教育支援体制整備事業」において、就職支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカーを配置した支援校で、27 年度の就職内定率が 26 年度と比較して 1.0 ポイント減少している。これは、キャリア教育の取り組みにより、生徒の就労意欲を高めることで就職希望者が増加したものの、明確な職業イメージを持たずまでにはいならず、また生徒の希望と職種がマッチングしなかったため、内定率を上昇させるまでにはいかなかったことによるものである。引き続き、就職支援コーディネーター等と連携し、支援校における校内体制の強化を図り、キャリア教育の充実努めていく。
  - ・中途退学への対応については、平成 26 年度の府立高校全日課程の生徒の中退率において全国平均との差が縮小した。平成 27 年度においても、高校中退防止コーディネーターの配置や各校の取り組みの共有化を行い、各学校の状況に応じた取り組みが進んだ。
- ③ 計画的な施設整備や ICT 環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。
- （基本方針8 基本的方向①の再掲）
- （基本方針7 基本的方向③の再掲）
- ・長期入院している生徒等への学習支援として、1 校で遠隔授業サポートシステムを確立した。

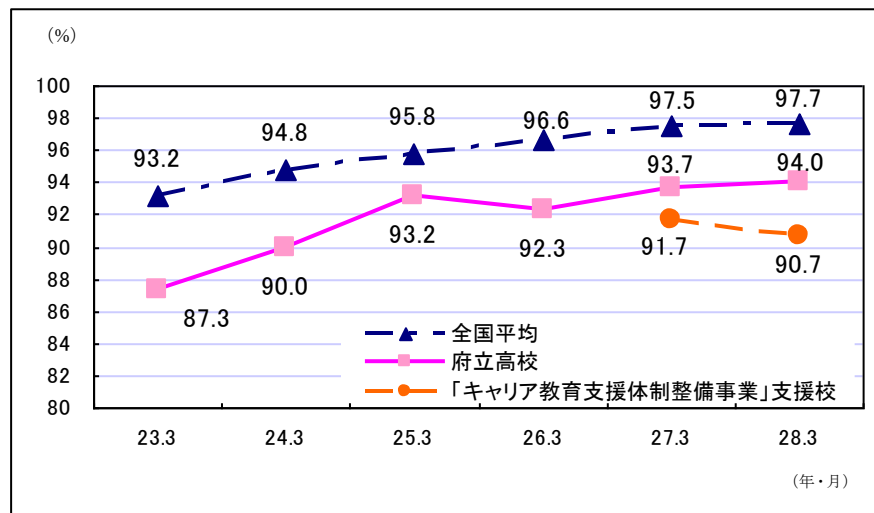
- ④ 府立高校の新たな特色にに応じて、中学生にとってより一層公平でわかりやすい入学者選抜制度とします。
- 調査書の絶対評価導入にあたっては、平成27年4月の臨時教育委員会会議で、府立高等学校入学者選抜における中学校3年生の目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）について「全国学力・学習状況調査」を活用した府内統一の基準を決定し公表した。
  - 新しい選抜制度について、配点、学力検査問題の種類、調査書・成績一覧表の様式等を平成27年5月に決定し、市町村教育委員会、中学校や高等学校を対象に、例年より早い時期に説明会を実施し、丁寧な周知に努めた。10月には選抜実施要項及び配慮事項を決定し、上記と同様、関係者への説明会を開催した。
  - 11月に、文部科学省が、平成28年度の「全国学力・学習状況調査」の結果を入学者選抜に関する資料として使うことはできないとしたため、平成29年度入学者選抜においては「全国学力・学習状況調査」に替えて中学3年生を対象に実施する独自の府内統一テスト（中3チャレンジテスト）を実施し、その結果を活用することとで、入学者選抜制度の安定性、継続性を確保することとした。
- ⑤ 各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。
- 府立高校の再編整備については、平成25年11月に策定した「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」に基づき、平成27年度にはエンパワメントスクール3校（西成、長吉、箕面東）を開校し、普通科総合選択制高校3校（福井を総合学科に、八尾翠翔、日根野を普通科専門コース設置校に）を改編した。また、同計画に基づき、平成28年度入学者選抜より2校（池田北、咲洲）の募集停止を行うとともに、平成28年度からのエンパワメントスクール2校（成城、岬）の開校と普通科総合選択制高校4校（豊島、北かわち皐が丘、みどり清朋、懐風館を普通科専門コース設置校に）の改編に向けて、教育内容や施設・設備に係る準備を行った。
  - 平成27年度に開校したエンパワメントスクール3校においては、基礎学力の充実のための「30分モジュール授業」や社会で活躍する力を身に付ける「エンパワメントタイム」の実施など順調なスタートを切っている。生徒の欠席者数が前年度と比較して約3～7割減少、遅刻者数は約3～5割減少した。
  - 平成27年度に再編整備をすることを決定した8校（布施北、門真なみはや、伯太、東淀川、かわち野、りんくう翔南、能勢、西淀川）については、開校・改編等に向けた検討や準備を進めた。引き続き、活力ある学校づくりと教育内容の充実に向けて、再編整備を進めていく。

【評価審議会における審議結果】



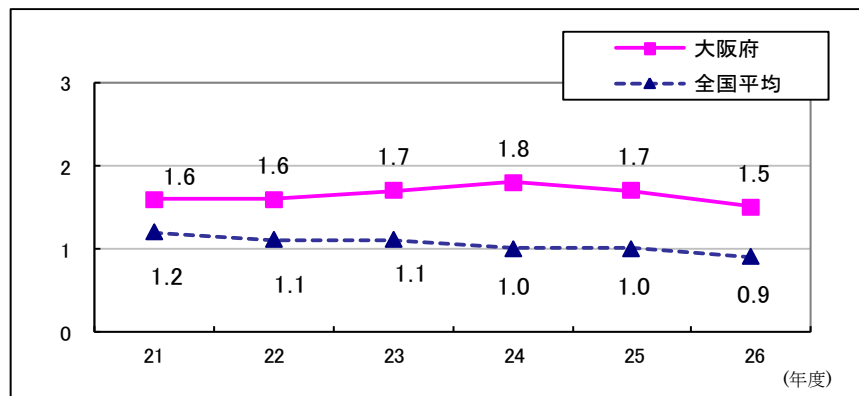
(参考)

◆指標 13 府立高校卒業者の就職率（就職者の就職希望者に対する割合）



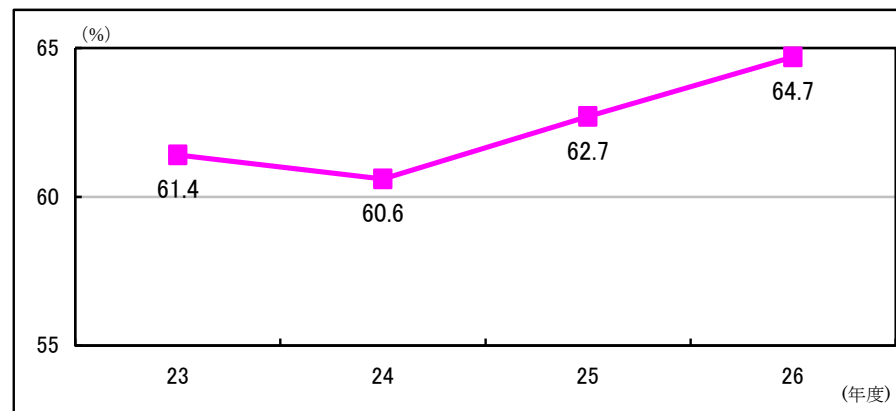
※府教育委員会調べ及び文部科学省「高等学校卒業者の就職状況調査」  
 ※「キャリア教育支援体制整備事業」支援校 39 校  
 （府立高校 34 校、私立高校 5 校 ※H27 年度）

◆指標 14 府立高校全日課程の生徒の中退率



※府教育委員会調べ及び文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

◆指標 15 グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）における大学進学率（現役進学率）



※府教育委員会調べ  
 ※GLHS: グローバル社会をリードする人材の育成をめざして教育活動を行う府教育委員会が指定した学校 10 校 (H26 年度末時点)



## 基本方針2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます（3）特色・魅力ある私立高校づくりを支援します

## 【基本的方向】

- ① 家庭の経済的事情にかかわらず、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を提供するため、私立高校生等に対する授業料無償化制度を実施します。あわせて、効果検証を行い、今後の制度検討を行います。
- ② 私立高校が、それぞれの建学の精神に基づき、社会の変化や府民の教育ニーズに対応した特色・魅力ある教育を行えるよう、私学教育の振興を図るとともに、公私がより共通の土俵で競い合える環境づくりに努めます。

## 【主な取組み】

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
①	私立高校生等に対する授業料等の支援 （私立高等学校等生徒授業料支援補助金 ＜参考資料2 P22＞） （私立高校生等奨学給付金事業 ＜参考資料2 P22＞）	授業料無償化制度を実施した。 平成26年度以降入学の1・2年生を対象に、市町村民税所得割額が非課税である世帯に対して、授業料以外の教育費の負担軽減を目的として、奨学のための給付金を支給した。
②	優れた取組みを実践する学校に対する支援 （学校経営推進事業 ＜参考資料2 P22＞）	優れた取組みを実践する学校に対する支援として、大阪の教育課題として府が指定する項目に対し、PDCAサイクルによる高い効果が見込まれる事業計画を提案する私立高校2校に支援した。
	生徒・保護者の学校選択肢の一層の充実 （＜参考資料2 P22＞）	通信制高等学校を1校設置認可するとともに、既設の全日制高等学校1校に通信制課程の設置を認可した。

## 【指標の点検結果】

指標	目標値 (H29年度)	H24年度実績値 (計画策定時)	H27年度実績値	点検結果
○指標 16 私立高校に対する生徒・保護者の満足度	向上させる	72.7%	78.8% [H26年度実績 72.1%]	○ 平成27年度実績は、計画策定時の実績を6.1ポイント上回った。
○指標 17 私立高校の教員が信頼できると答えた生徒の割合	向上させる	67.0%	71.7% [H26年度実績 66.9%]	○ 平成27年度実績は、計画策定時の実績を4.7ポイント上回った。
○指標 18 私立高校全日制課程の生徒の中退率	全国水準をめざす	1.5% (全国：1.5%)	H26年度実績 1.3% (全国 1.3%) 〔H25年度実績 1.6% (全国 1.5%)〕 ※H27年度実績は H28年秋以降に公表予定	○ (注) 平成26年度実績は、計画策定時の実績より0.2ポイント改善し、全国水準並みとなった。
○指標 19 私立高校卒業生(全日制)の大学進学率	向上させる	71.9%	H26年度実績 72.1% [H25年度実績 71.4%] ※H27年度実績は H28年秋以降に公表予定	○ (注) 平成26年度実績は、計画策定時の実績を0.2ポイント上回った。
○指標 20 私立高校卒業生の就職率 (就職者の就職希望者に対する割合)	全国水準をめざす	92.1% (全国：93.9%)	93.6% (全国：97.5%) 〔H26年度実績 95.6% (全国：97.3%)〕	△ 平成27年度実績は、計画策定時の実績を1.5ポイント上回ったが、全国平均を3.9ポイント下回った。

(注) 目標に対する平成26年度実績の進捗状況を記載。

## 【自己評価】

- ① 家庭の経済的事情にかかわらず、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を提供するため、私立高校生等に対する授業料無償化制度を実施します。あわせて、効果検証を行い、今後の制度検討を行います。
- ・私立高校生等の授業料無償化の実施により、制度創設前と比べ私立高校に進学する割合が増加するなど、経済的理由を問わない自由な学校選択に寄与している。また、制度の検証のため、公私の流動化の状況の分析に努めるとともに、私立高校の保護者に対し、学校選択に関する満足度調査を実施した。私立高校への満足度を示す指標については昨年度に比べ上昇するなど、期待していたような成果が調査結果に現れていることから、引き続き、満足度が維持・向上するよう努めていく。
  - ・平成 28 年度以降の新入生に対する授業料支援については、現行の無償化制度の継続を大きな考え方としつつ、きめ細かく対応するという考え方で、私立高校生及び大学生が三人以上の多子世帯へ配慮した支援制度の創設、また、制度の継続的な実施という観点から、生徒が二人以下の世帯の保護者負担の見直し等を行うこととし、平成 28 年度から 30 年度までの入学生に対する授業料無償化制度の内容を決定した。
- ② 私立高校が、それぞれの建学の精神に基づき、社会の変化や府民の教育ニーズに対応した特色・魅力ある教育を行えるよう、私学教育の振興を図るとともに、公私がより共通の土俵で競い合える環境づくりに努めます。
- ・私立高校の振興を図るために、経常費補助金を交付するとともに、優れた取組みを実践する私立高校 2 校を支援した。
  - ・私立高校卒業者の就職率については、女子の就職率が下がったことにより全体として昨年度実績を 2.0 ポイント下回った。キャリア教育の充実に向けた支援を通じて改善をするよう努めていく。

【評価審議会における審議結果】



(参考)

◆指標 18 私立高校全日課程の生徒の中退率

